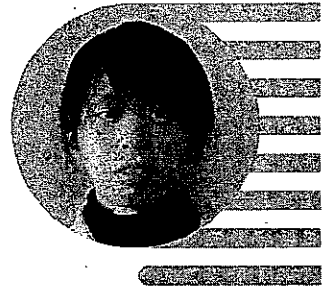


# モモ・スモモ

上場営農センター

前山 美和



本年は、カメムシの発生量が多いようです。周辺農家と連携し、徹底して早期防除を行いましょう。

## 六・七月の管理

### モモ・スモモ共通

これまでの生育状況は、四月の気温が低かったため、展葉が若干遅れ気味になっています。

そのために、例年より収穫前の新梢の伸長が心配されるため、新梢管理を中心に行ってください。

また、今月から早生種の収穫が始まるかと思いますが、同時に梅雨期にも入りますので品質低下防止のための事前対策をしっかりと行いましょう。

### 新梢管理

モモの特性として、果実肥大と並

行して新梢伸長が盛んになります。

新梢管理を怠ると過繁茂となり、果実に枝葉が覆いかぶさって日照不足になったり、薬剤がかかりにくくなって病害虫が発生しやすくなったりします。

棚栽培では空間の棚に新梢を誘引し、立ち木では下部の枝に誘引するかねん枝を行い伸長を抑制してください。このように、樹全体の日当たりを良くするために、ねん枝や誘引を主体に新梢管理を行います。

また、枝の切り返しについては、この時期行くと再伸長した新梢の花芽が充実しないため行わないでください。

特に強い徒長枝はせん除しますが、満開後五〇〜七〇日頃は硬核期となり、核割れの原因となるためその期間には行わず、満開後七〇日を過ぎ

てから行ってください。また、果実の重みで下垂してきた枝は支柱立てや枝つりをします。

### 土壌管理

モモは収穫前の土壌水分が品質に大きく影響します。例年、早生種の収穫時期と梅雨期が重なるため、マルチ栽培は必須です。

多孔質資材（タイベック）によるマルチで降雨を遮断するとともに、反射光で樹冠内を明るくすることが着色と品質の向上につながります。

シートの被覆時期としては、降雨が予想される前の収穫二〇〜三〇日前を目途に行いますが、ミカンで行うマルチ同様に園内に水の進入があれば、せつかく敷いても効果が出ませんので、完全に水を遮断してください。

排水不良園については、排水溝を設けるなど排水対策を徹底してマルチ効果を高めてください。

また、過度の乾燥は樹勢が弱るため、シートの下に堆肥や麦ワラなどの有機物を敷くと、樹勢低下させることなく効果が高まります。

収穫後はマルチを除去して礼肥を施用するとともに、乾燥が続く時はかん水を行い、樹勢回復に努めてください。

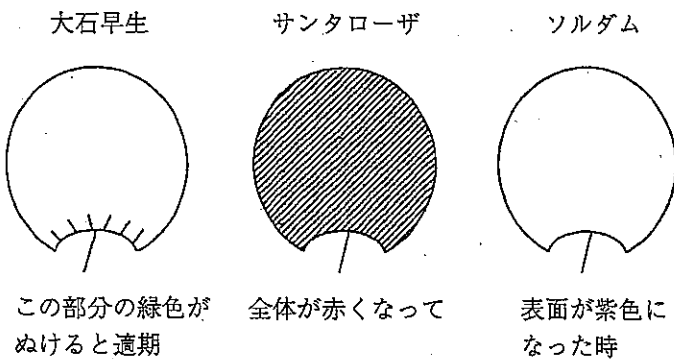
また、土壌の乾燥防止と表層根の

保護を目的に敷ワラでマルチを行いましょう。

### 収穫・出荷

反射マルチを被覆した園では果皮の着色が早くなり、未熟果を収穫しがちなため、着色だけの判断ではなく、果梗部の緑色が抜けた果実を収穫してください。

収穫は、果実の鮮度を保つために果実温度の低い早朝に行います。収穫した果実は、傷果にならないように、収穫かごにスポンジ等のクッション



この部分の緑色がぬけると適期

全体が赤くなって

表面が紫色になった時

第1図 スモモの収穫適期

第1表 モモの防除基準

散布時期	対象病害虫	薬剤処方	使用時期	使用回数
6月中旬	モモハモグリカ シンクイムシ類	ロディー水和剤 1,000倍	収穫前日まで	5回以内
		アンピルフロアブル 1,000倍	収穫前日まで	3回以内
	灰星病	バイコラル水和剤 2,000倍	収穫前日まで	3回以内
7月中・下旬	ハダニ類	ダニトロンフロアブル 1,000倍	収穫7日前	1回

※灰星病防除は収穫20日前頃を目途に行う。

アンピルフロアブル及びバイコラル水和剤はロディー水和剤と混用可能。

ンをつけて採取し、果実の重ね置きは避けましょう。  
箱詰めは一箱内の着色、熟度を揃え、未熟果、過熟果、異階級の混入を防止し、運搬中に果実が傷まない

第2表 カメムシ類に登録のある薬剤（モモ）

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	系統名
アグロスリン水和剤	2000倍	収穫7日前まで	5回以内	合成ピレスロイド
テルスター水和剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	
アルパリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	ネオニコチノイド
スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	

**病害虫防除**

ように満杯に詰めましょう。  
モモは収穫期から落葉期までの期間が長く、早期落葉すると貯蔵養分

第3表 スモモの防除

散布時期	対象病害虫	薬剤処方	使用時期	使用回数
6月中旬	アブラムシ類 シンクイムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	灰星病	トリフミン水和剤 1,000倍	収穫前日まで	3回以内
7月中旬	アブラムシ類 シンクイムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍	収穫前日まで	3回以内

の蓄積が不足し、来年の生産に大きく影響します。  
収穫が終わったからと気を抜かず、来年度の貯蔵養分確保のために早期落葉させないように注意しましょう。

**スモモ**

**新梢管理**

モモと同様に、徒長枝や不要な発育枝は誘引、ねん枝、せん除を行ってください。

**収穫・出荷**

品種により収穫適期が異なるので、図を参考に特性に合わせて適期収穫を行ってください。  
また、ソルダム等の果粉の多い品種は、果粉が落ちないように取り扱いに注意しましょう。

また、今年のカメムシ類の越冬数が多い状況にあり、加害されれば落果します。  
園地に飛来したカメムシは集合フェロモンで大量のカメムシを誘引し、甚大な被害を受ける事になります。  
一匹でも見かけたら、早急に防除してください。  
薬剤によっては、散布後数週間は収穫できないものもあるため、防除を行う際には、使用できる時期（収穫前日数）や使用回数を確認してください。  
また、収穫直前の急なカメムシ飛来等の場合は、技術員と相談して薬剤を決めてください。